

公共図書館における高齢者の社会参加につながる生涯学習の支援

松山 真悠

2011年、文部科学省に設置された超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討委員会は『長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年 いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」～』において、高齢者を「すでに役割を終え、社会から支えられる者」とする従来の高齢者観に疑問を呈し、高齢者を「地域社会の担い手」とする新しい高齢者観を、生涯学習を通じて広げていくことの重要性を指摘した。しかし、生涯学習を支える施設の一つである公共図書館は高齢者の生涯学習に十分活用されていないのが現状である。そこで本研究では、高齢者の学習ニーズを明らかにし、公共図書館に社会参加につながる生涯学習へのサービスの課題を考察することを目的とする。

本研究では、文献調査と質問紙調査、インタビュー調査を行った。まず、高齢者の生涯学習の意義と日本の公共図書館における高齢者サービスの現状と課題を明らかにすることを目的に、政府による高齢社会対策に関する報告書や高齢者に対する図書館サービスに関する雑誌論文・図書を対象として文献調査を行った。その結果、(1)高齢者は健康維持・仲間づくり・時間の有効的な活用を目的として生涯学習を行っていること、(2)学習成果を社会へ活用することへのニーズがあること、(3)高齢者の生きがいがづくりにおいて、生涯学習と社会参加が密接に関係していることが明らかとなった。さらに、日本の公共図書館における高齢者サービスがどのように捉えられてきたのかについて、図書館サービス対象の捉え方に注目して明らかにし、先駆的な高齢者サービスの事例から、現状において考えられる課題について考察を行った。

また、一般的な図書館の利用者アンケートでは明らかにすることができない図書館非利用者を含む高齢者の潜在的なニーズを明らかにすることを目的として高齢者大学を対象として質問紙調査を行った。その結果、高齢者の学習ニーズと目的、社会参加活動と学習支援へのニーズ、公共図書館利用の実態の3点を明らかにした。そのうえで、本研究における「社会参加につながる学習」を「社会参加に直接的に関連する実用的な内容と高齢者に身近な内容について、自分以外の他者と関わりを持てるような方法で行う学習」と定義した。

さらに、高齢者の生涯学習・社会参加に対する支援の現状を明らかにし、支援側の課題を考察するために、公共図書館職員と高齢者大学関係者、実際に社会参加をしている高齢者を対象にインタビュー調査を行った。その結果、公共図書館における高齢者の社会参加につながる生涯学習への支援の課題として、(1)社会参加の場を十分に用意できていないこと、(2)アクティブ・シニアへのサービス意識の欠如が考えられることについて指摘した。これらの課題を解決するためには、他機関との連携や公共図書館を利用しない高齢者のニーズの把握が重要だと言える。

(指導教員 呑海沙織)